

※1～※5に関する箇所について

建設発生土の利用率に関する補足事項

建設発生土の有効利用に関する指標については、トータルとしての需給バランスについて利用量よりも発生量が大幅に上回っている状況を踏まえ、以下の考え方で算出しております。

利用土砂の建設発生土利用率

$$= \frac{\text{土砂利用量のうち土質改良を含む建設発生土利用量}}{\text{土砂利用量}}$$

※土砂利用量とは、搬入土砂利用量＋現場内利用量

この波線部分について、従来においては、「盛土等で利用する土砂について全て自工事内で発生する土砂を用いる工事（＝現場外からの土砂の搬入を一切行っていない工事）」（以下、「100%現場内完結工事」という。）については含めていませんでした。これは、「そもそも一つの工事の中で発生量と利用量のバランスを図ることは、工事担当者として当然すべき行為である」という考えに基づいたものです。

しかしながら、発生量と利用量のバランスを図ることによって現場外からの土砂搬入量をゼロにすることは、むしろ積極的に評価すべき取り組みであるとも考えられるため、今回、100%現場内完結工事を対象に加えた場合の集計結果についても以下の通り併せて公表させていただきます。

※1 再資源化等の状況（1頁参照）

	平成14年度	平成17年度	増減
利用土砂の建設発生土利用率	83.0%	80.1%	2.9ポイント減

※2 建設リサイクル推進計画2002の進捗状況（1頁参照）

- ・今回の考え方に基づく目標値は設定していない

※3 表2. 建設発生土の排出状況及び土砂の利用状況（2頁参照）

H 1 4	建設発生土の排出状況	場外排出量(万m ³)					現場内利用 (万m ³)
		工事間利用	再資源化施設	海面処分場	内陸受入地		
	24,509	6,443	914	186	16,966		
H 1 7	建設発生土の排出状況	場外排出量(万m ³)					現場内利用 (万m ³)
		工事間利用	再資源化施設	海面処分場	内陸受入地		
	19,518	4,986	876	115	13,541		
H 1 4	土砂の利用状況	搬入土砂利用量(万m ³)					現場内利用 (万m ³)
		新材利用	建設発生土利用	土質改良土	汚泥処理土	再生砂	
	12,911	5,243	6,443	914	—	312	
H 1 7	土砂の利用状況	搬入土砂利用量(万m ³)					現場内利用 (万m ³)
		新材利用	建設発生土利用	土質改良土	汚泥処理土	再生砂	
	10,728	4,650	4,986	876	34	182	

※4 平成17年度の各地方における建設副産物のリサイクル状況（3頁参照）

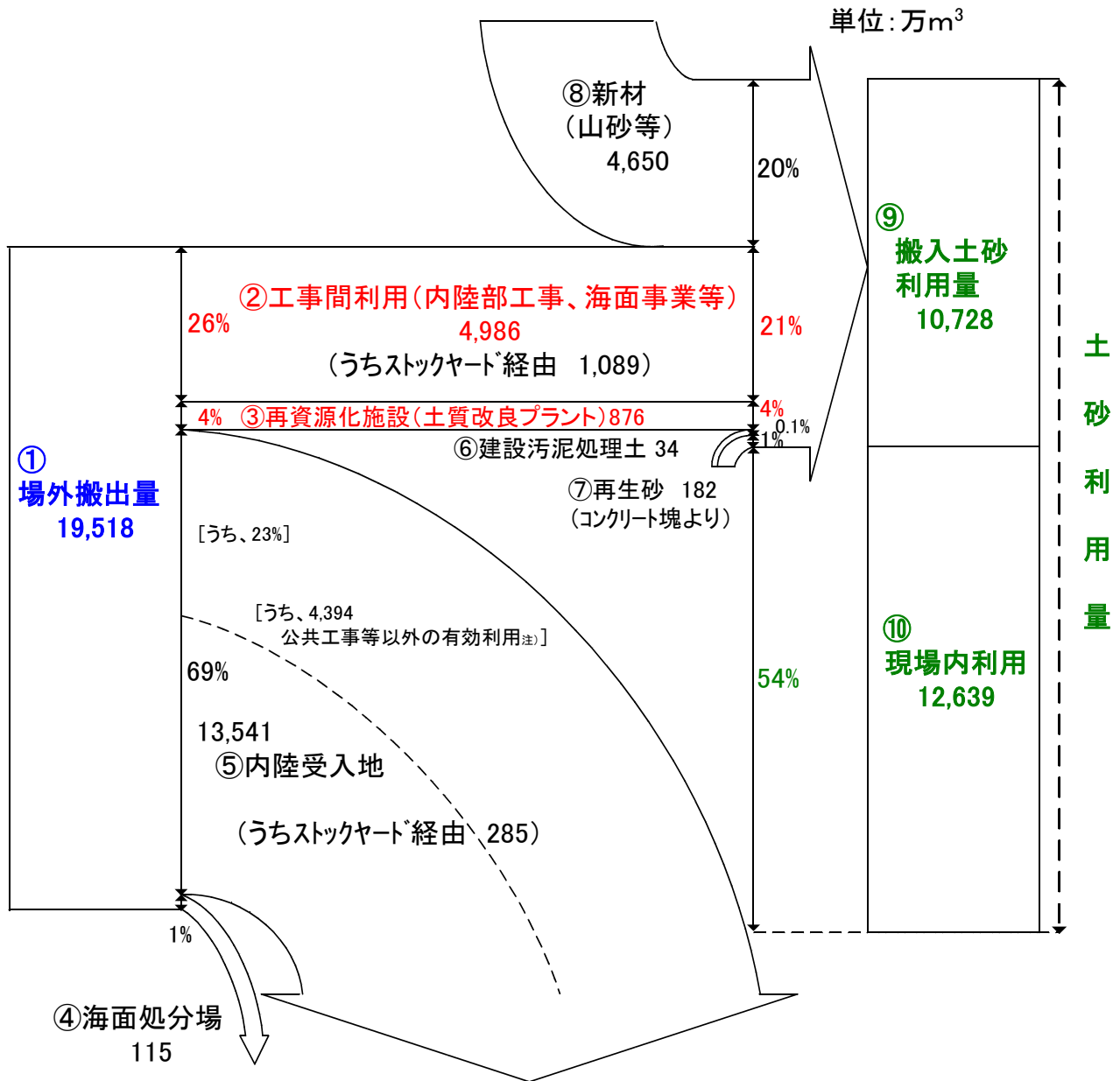
（単位：％）

	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国
利用土砂の建設発生土利用率	81.3 (85.3)	70.5 (72.1)	83.6 (85.7)	78.6 (78.8)	83.7 (88.2)	80.1 (83.0)	86.3 (85.4)	70.6 (84.4)	81.5 (82.6)	84.9 (92.6)	80.1 (83.0)

注：1段目は、平成17年度の値

2段目の（ ）は、平成14年度の値

※5 全国における建設発生土の搬出・利用状況（11頁参照）



利用土砂の建設発生土利用率 $\frac{②+③+⑥+⑦+⑩}{⑨+⑩} = 80.1\%$

資料: 平成17年度建設副産物実態調査(国土交通省)
※四捨五入の関係上、合計があわない場合がある。

注: 「公共工事等以外の有効利用」とは、将来活用することが確定した自治体管理の受入地などのことである。